

口腔癌

## 口腔癌、特に舌癌について 1

口腔癌は、部位別に舌癌、口腔底癌、上下の歯肉癌、頬粘膜癌、硬口蓋癌、口唇癌に分類されます。その中で舌癌が最も多くみられます。

組織型ではほとんどの症例が扁平上皮癌です。

リスクファクターとして、口腔内不衛生、飲酒、喫煙があります。

舌癌では側縁にできることが多く、当初は違和感程度の症状ですが、進行すると舌に白いものが見られたり、舌を触ると塊りがあったり、痛みを伴います。

組織検査によって確定診断がなされ、CT、MRIなどの画像診断で局所の進展状況を診断します。

上部消化管内視鏡検査を行い、重複癌の有無をチェックします。

## 口腔癌、特に舌癌について 2

治療の基本は手術治療です 早期癌に対する組織内照射も行われますが実施可能な施設に限定があります

早期病変に対しては、病変の切除を行い、創部はそのまま縫合したり、PGAシートやシリコンシートなどを用いて組織表面を覆ったりします

進行病変に対しては、病変の切除を行った後に、患者さん自身の別の体の部位から組織（腹直筋皮弁、外側大腿皮弁、前腕皮弁など）を採取し血管吻合による**再建術**を行います

取った組織のとれ具合やリンパ節の状態によっては、**術後治療**として抗がん剤と放射線療法を併用する化学放射線療法を行います

手術に際しては、摂食、構音、咀嚼の障害が生じるためリハビリを行います